

## 第3学年1組 音楽科学習指導案

指導者 西田理恵

- 1 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう  
教材名 「とどけようこのゆめを」「メヌエット」(ベートーベン作曲)

### 2 題材について

《学習指導要領とのかかわり》

#### A表現

##### (1) 歌唱

イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

##### (2) 器楽

イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

#### B鑑賞

ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

[共通事項]

ア (ア) リズム 旋律

(イ) 反復

#### (1) 題材観

本題材では、曲想を決定付けている最も重要な要素の一つである旋律の特徴やリズムの変化に着目し、その特徴を感じ取ったり、それによって生まれる曲想を捉えたりしながら、鑑賞の活動を表現の活動に生かし、表現の仕方を工夫できるように進めていく。

鑑賞の活動において、どの学年でも共通していることの一つに、強弱や速度の変化については気付くことができるが、旋律の音の動きやリズムに関しては、速度や強弱と同じように気付くことができない児童が多いという現状がある。表現活動においても、耳からの聴取に頼って、同じように表現しようとはしているが、音の動きやリズムについてはっきり意識している児童は限られる。3年生のこの時期の児童は、楽譜に関する認識も、視覚的な音高感もまだ身に付いていないため、当然とも言える。しかし、学年が上がってもその状況に大きな変化はなく、旋律の音の動きについて気付くことができ、さらにそれを言葉で表現できる児童は少ないと感じる。楽譜や音階についてなど、音楽を視覚的に捉えていくことを始めたばかりの3年生というこの時期に、旋律の音の動きについてしっかりと感じ取ることができるようにしておくことは大切だと考える。

そこで、今回は、旋律の特徴やリズムの変化に着目し、教材を取り上げた。第1次の表現では、「とどけようこのゆめを」を教材として、アとイの旋律の特徴の違いを感じ取り、指揮をしたり、歌い方を変えたり、自分たちなりに表現の仕方を工夫する。

第2次では「メヌエット」を鑑賞し、体を動かす活動を通して旋律の特徴やリズムの変化を感じ取らせたい。3年生の児童は、音や音楽に合わせて動いたり、指揮をしたり、体を揺らし

ながら歌ったりと、体を動かすことが好きである。3年生の発達段階の特性からも、また、学習指導要領の内容の取扱いと指導上の配慮事項に、「音楽との一体感を味わい、想像力を働かせて音楽とかかわることができるよう、指導のねらいに即して体を動かす活動を取り入れること」と示されていることから、体を動かす活動を手掛かりの一つとして取り組ませたい。そうすることで、語彙の豊富でない3年生の児童にとっても、言葉で表現しきれないところを体の動きで補うことができると考える。教師が、「なぜそのように動いたか」を尋ねて児童の動きや思いを言語化したり、図形譜や拡大譜などで旋律の特徴を視覚的に確認したりすることで、体全体で聴くことを楽しみながらも、この楽曲における、音楽を特徴付けている要素を明らかにし、鑑賞活動を深めていきたい。

第3次では、児童が意欲的に取り組んでいるリコーダーの器楽表現も取り入れて、旋律の特徴に合わせた表現の仕方を工夫する。児童はリコーダーを吹くことが好きで、楽しんで取り組んでいるが、まだ、曲想に合った演奏には至っていない。第2次までの学習を生かし、「なめらかな旋律だから、やさしい吹き方で音をつなげて演奏したい。」などのように、旋律の特徴を感じ取ったうえで演奏の仕方を考えていけるようにしたい。

これらの活動を通して、たっぷりと音楽を体で感じ、感じたことを体で表現することで、こんなふうに歌いたい、こんなふうに演奏したいという思いが体の内から生まれ、自分の思いをのびのびと表現することを楽しめるような児童を育てたい。

## (2) 児童の実態 (男子17名、女子17名、計34名)

本学級の児童は、全般的に音楽活動を楽しんでいる児童が多い。2年生までの音楽活動への学習経験に違いが見られる部分もあるが、3年生になって、新しい友達と出会い、新たな気持ちで前向きに取り組もうという姿が見られる。

### ○表現活動について

歌唱活動においては、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。発音がはっきりしている児童が多く、体を揺らしながら表現したい気持ちを出して歌っている児童も多い。一生懸命歌うあまり、大声になりがちな児童もいるので、響きのある声になるよう、声の出し方を意識させていく必要がある。

器楽活動においては、新しく始まったリコーダーに意欲的に取り組んでいるが、息の使い方の調節ができていない児童が多く、きれいな音色で演奏するには、練習を積み重ねていく必要がある。

### ○鑑賞活動について

3年生になってからは、毎時間のウォーミングアップの時間に、鑑賞活動も取り入れて、体を動かしながら音楽を聴く活動を習慣づけてきた。

児童は、歌う様子からもうかがえるように、体を動かすことを好み、ほとんどの児童は、体を動かして音楽を鑑賞することを楽しんでいる。その一方で、楽しんではいるが、音楽の感じと関係なく動いてしまう児童やどのように表現したらよいかわからないと感じている児童も数名いる。また、曲を鑑賞して気付いたことを書く活動になると、何を書いたらよいかわからないと感じている児童が多い。気付いたことがあっても、みんなの前で発

表することは難しいと考えている児童はさらに多い。

2年生の教材曲を鑑賞して、気付いたことを自由に書かせてみると、速度、強弱に関することを書く児童が多く、その他に楽器の音色、曲の気分から想像した様子などについて書く児童もいた。その一方で、リズムや音の動き方に気付く児童は少なく、気付いても、「なめらか」、「はずんだ」などの一言であったり、「高い音」、「低い音」など、捉え方が断片的であったりして、旋律の特徴として気付くところまでは至っていない。

#### <拍、強弱、曲想に合わせて表現する活動>

「シンコペーテッドクロック」「トレパーク」「馬にのって」を聴き、拍に合わせて歩いたり、アクセントの部分や曲想の変化を動きで表現したりした。拍や強弱を感じながら聴くことができている児童もいたが、楽しそうに表現していても、音との関連性があまり見られない児童もまだ多い。

#### <旋律の音の動きに合わせて表現する活動>

「白鳥」「ユモレスク」「ガボット」「スケーターズワルツ」などの旋律の音の動きに合わせて表現する活動を行った。「白鳥」では、ゆったりした旋律の流れと音の高低に合わせて、手を動かして表してみた。音の途切れないなめらかさや音が高く続くところなど、わかりやすい部分は、手の表情で表すことができた児童が多いが、一つ一つの音の高低に合わせて動かす様子はあまり見られなかった。まだ、音高感についての認識は足りないと感じる。「ユモレスク」「ガボット」と、鑑賞を進めるにつれ、音の動きを意識できる児童も少しずつ増えてきた。

#### <音の長さに合わせて動く活動>

8分音符、4分音符、2分音符などの音の長さに合わせて動く活動を行った。初めは、速い感じ、遅い感じといった大まかなとらえ方で動いていた子が多かったが、何度か行ううちに、音に合わせて動くことができるようになってきた。しかし、特に8分音符の速いテンポになると、音に合わせて動くことができず、速くなりすぎてしまう子が数名いる。

#### <考察>

実態から、児童が好んでいる、体を動かす活動を取り入れた鑑賞の学習を行うことで、旋律の音の動きやリズムに注目できるようにしたい。また、言葉で表現することが難しいと感じている児童の思いや気付きを引き出すためにも、体を動かして表現することは有効であると考え。児童の体の動きから、友達や指導者が言葉を補うことで、自分の思いや気付いたことを伝えることができると考える。このように、児童の体の動きを言語化して本人の思いを認めることで、自信をもてるようにしたい。また、聴くだけでは見えにくい音の動きを図形譜や拡大譜などをたどることで、視覚的にもわかるようにしていきたい。

鑑賞の学習を通して、音と一体となって旋律の音の動きやリズムを十分に感じ取ることで、歌唱や器楽の表現においても、旋律の音の動きやリズムに合わせた表現の工夫を意識できるようにつなげていきたい。

### (3) 指導観

第1次では、「とどけようこのゆめを」を教材として取り組む。この曲は、前半ははずみ、後半はなめらかというように曲想が変わる。また、後半には副次的旋律としてリコーダーパートが加わる。第1次では、歌唱の部分だけを扱い、前半の歌い方と後半の歌い方を工夫したり、指揮の仕方を工夫したりして、旋律の感じの違いを感じ取り、それぞれにあった表現の仕方を考えていく。

第2次では、「メヌエット」（ベートーベン作曲）を鑑賞する。この曲は、ア→イ→アの構成になっている。アとイの旋律の特徴やリズムの違いがはっきりしていることから、3年生の児童にとっても、アとイの曲想の変化をとらえやすい。

まず、ア→イ→アの構成になっていること、ア、イの曲想の違いが、旋律の特徴とリズムの変化からくことに気付かせたい。さらに、ア、イそれぞれどんな感じの音楽だったか、なぜそう感じたのか、理由を問いかけることで、どんな旋律の特徴やリズムの変化があるのかにも気付かせていきたい。しかし、最初から言葉で表現するのは、3年生にとっては難しい。そこで、3年生の発達段階や実態を生かして、体を動かすことで感じ取らせたい。また、図形譜や拡大譜などの活用を通して視覚的に旋律の動きを捉えさせたい。音の上がり下がりや揺れなどを自分の体の動きで実感したり、視覚的に確認したりすることで、それぞれの要素によって醸し出される曲想に気付けるようにしていきたい。また、今回は、アとイの曲想の違いがはっきりとわかる、バイオリン演奏による「メヌエット」を聴くこととした。

第3次では、第1次で取り上げた、「とどけようこのゆめを」に再度取り組む。歌唱の部分では、第2次で学習したことを生かし、「メヌエット」と同じような旋律の特徴に気付かせることで、第一次の時よりもさらに自分なりの思いをもって表現させたい。そうすることで、吹くだけで精一杯だったリコーダーの演奏も、歌唱に合わせた表現にしたいという思いをもてるようになり、旋律の特徴を考えた演奏の仕方変わっていくだろうと考える。

### 3 題材の目標

○音楽を特徴付けている要素（旋律の特徴やリズムの変化）に気付いて聴いたり、曲想にふさわしい表現を工夫しながら演奏したりする。

### 4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
旋律の特徴やリズムの変化に興味関心を持ち、鑑賞の学習や表現の学習に進んで取り組もうとしている。	なめらかな感じ、はねる感じなどの旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌ったり楽器を演奏したりするかについて自分の思いや意図をもっている。	なめらかな感じ、はねる感じなど、曲想の変化にふさわしい表現で歌ったり楽器を演奏したりしている。	旋律の特徴を聴き取り、感じ取ったことを体の動きや言葉で表すなどして、楽曲の特徴に気付いて聴いている。

## 5 研究の視点について

### **視点1 表現と鑑賞を関連させた題材構成（の開発）**

#### ○指導計画の工夫

題材を通して旋律の特徴やリズムの変化に着目し、そこで学習したことを次に生かして取り組めるように教材を選び、指導計画を工夫した。また、「鑑賞」の学習で気付いたことを、歌唱、器楽表現に生かしたいと考え、「表現」→「鑑賞」→「表現」という順に計画を組み、「表現」で扱う教材を同じ曲とした。第1次の「表現」では歌唱の部分扱い、第2次の「鑑賞」後の第3次では、歌唱にリコーダー演奏も加えて扱う。児童が「鑑賞」の活動で実感したことを、さらに表現の工夫に生かし、思いをもって表現できるようにしたいと考えた。また、指導計画を進めていくに当たっては、第1次から第2次、第2次から第3次へとつながりをもたせるために、その時間の最後に次時の導入に触れて終え、児童につながりを意識させられるようにした。

### **視点2 思いや意図をもって表現したり、聴いたりする力の育成（のための手法）**

#### ○体を動かす活動

3年生の児童は、語彙も十分ではなく、また、音楽の感じを表すことについても、感じたことを言葉で表現することは十分とは言えない。感じたことや思いがあっても、なかなか伝えることが難しい児童が多い。一方、音や音楽に合わせて動いたり、指揮をしたり、また、体を揺らしながら歌ったりと、体を動かすことは好きである。そこで、鑑賞の学習においても、体を動かす活動を取り入れることで、聴いて感じたことが自然と表現されるだろうと考えた。また、なぜ、そのように動きたかったのかを発問することで、体の動きと音との関係をつなげていけるようにしたい。しかし、中には、気付くことができ、動くことができても、言葉で表せない児童もいる。本人が、上手に言葉で表現できないところについては、指導者や周りの児童が補いながら進めていき、感じ取れたことや音の動きに合わせて体を動かすことができていることを認め、自信をもって活動に取り組ませたい。

#### ○鑑賞の常時活動

鑑賞の学習は、歌唱や器楽の学習に比べると時間が限られており、継続して経験を積み重ねていくことが難しい。そこで、毎時間のウォーミングアップの時間（リズム打ち、今月の歌など）に、音楽に合わせて体を動かす活動を取り入れ、音楽を聴くことを身近な活動として位置付けてきた。その際、児童が体を動かしやすいよう、拍の流れ、強弱、速度、リズムなど、「音楽を形づくっている要素」がわかりやすい曲を選んで取り組んできた。3年生という発達段階の児童の自由な発想を生かす一方で、手だけで表したり、足踏みをしたりするなど、動き方を示すことで、どのように表現したらよいかわからない児童も、安心して取り組めるようにもした。このような活動に慣れることで、聴く耳を育て、自分の思いをもって聴く活動に取り組んだり、気付いたことを表現の工夫に生かしたりすることにつながっていくと考えた。

6 題材の指導計画（6時間計画）

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	評価規準 〈評価方法〉
第1次		ねらい 旋律の特徴やリズムの変化を感じ取って歌い方を工夫する。	
	1	○曲想の違いを感じながら「とどけようこのゆめを」を歌う。 ・範唱を聴き、旋律を歌う。 ・前半と後半の旋律の特徴の違いを感じ取りながら歌う。	・前半と後半の曲想の違いに興味・関心をもって進んで歌おうとしている。(関・意・態) 〈観察・聴取〉
	2	○曲想にふさわしい表現を工夫して「とどけようこのゆめを」を歌う。 ・前半と後半の旋律の特徴の違いを表現する方法を考えて歌う。	・前半と後半の旋律の特徴を感じ取りながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うか自分の考えをもっている。(創意工夫) 〈観察・ワークシート〉 ・曲想にふさわしい表現で歌っている。(技能) 〈聴取〉
第2次		ねらい 旋律の特徴やリズムの変化に気を付け、楽曲全体の特徴や演奏のよさを味わって聴く。	
	3 本 時	○「メヌエット」のアとイの曲想の違いを感じ取る。 ・音楽に合わせて体を動かしながら聴く。 ・アとイの旋律の特徴やリズムの変化について話し合う。	・旋律の特徴やリズムの変化に興味・関心をもち、体を動かして音楽を感じ取ろうとするなどして、進んで聴こうとしている。(関・意・態) 〈観察・発言〉
	4	○旋律の特徴やリズムの変化を感じ取りながら「メヌエット」全体を聴く。 ・旋律の特徴について感じ取ったことをワークシート(演奏者への手紙)に書く。 ・旋律の特徴やリズムの変化を味わいながら聴く。	・旋律の特徴やリズムの変化を聴き取り、感じ取ったことを手紙に書くなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。(鑑賞) 〈発言・ワークシート〉
第3次		ねらい 曲想にふさわしいリコーダー演奏の仕方を工夫して、歌と合わせる。	
	5	○「とどけようこのゆめを」のリコーダーのパートを演奏する。 ・階名で歌い、リコーダーの旋律を知る。 ・リコーダーの運指を練習する。	・階名で歌ったり、リコーダーで演奏したりする学習に、進んで取り組もうとしている。(関・意・態) 〈観察〉
	6	○旋律の特徴や歌い方に合わせたリコーダーの演奏の仕方を工夫する。 ・歌の気分に合わせて演奏の仕方を工夫する。 ・みんなで演奏したり、友達の演奏を聴いたりする。	・旋律の特徴に合ったリコーダーの演奏の仕方を工夫し、どのように歌と合わせたらよいか自分の考えをもっている。(創意工夫) 〈発言・ワークシート〉

7 本時の学習（3／6）

（1）本時の目標

○体を動かして楽曲を聴き、アとイの曲想の違い（なめらかな感じ、はねる感じを生み出す旋律の特徴やリズムの変化）を感じ取る。

（2）展開

学習内容と学習活動	○ 教師のかかわり
<p>1 ウォーミングアップをする。 ・「とどけようこのゆめを」を歌う。</p> <p>2 「メヌエット」を聴く。（試聴①・・・全曲） ・全体を最後まで聴き、ア→イ→アになっていることを確認する。</p> <p>3 今日のめあてを確認する。</p>	<p>○体と気持ちをリラックスして取り組めるよう、雰囲気づくりをする。</p> <p>○前時に学習したことを思い出せるように声かけをする。</p> <p>○自席で、曲の感じや音の感じをよく聴くように声をかける。</p> <p>○音楽の仕組みがア→イ→アになっていることに気付かせるように発問する。</p> <p>○一度で聴き取れなかった場合は、もう一度曲を聴いたり、教師が口ずさんだりすることで確認する。</p>
<p>せんりつのとくちょうやリズムのへんかを感じとろう。</p>	
<p>4 ア・イ、それぞれを聴き、旋律の特徴やリズムについて話し合う。（試聴②・・・部分）</p> <p>・ア・イ、それぞれの前半部分だけ聴きながら口ずさんだり体を動かしたりして、旋律の特徴やリズムを確認する。</p> <p>・ア・イ、それぞれの最初の部分を図系譜・拡大譜で示し、指でたどりながら旋律の特徴やリズムについて確認する。</p> <p>&lt;予想される動きと発言&gt;</p> <p>ア【動き】体を揺らす 腕を揺らす 付点のリズムをとる動き 3拍子の拍をとる動き</p> <p>【発言】なめらかな感じ 揺れている感じ 音がつながっている ゆっくり 音があまり上下に動いていない</p>	<p>○旋律をよく聴き、体を動かしながら感じ取ったことを表現するように声をかける。</p> <p>○旋律の特徴を捉えられるように、アの前半部分だけ、イの前半部分だけを繰り返して聴かせる。</p> <p>○児童の動きを観察し、そのように体を動かしたわけを問いかける。</p> <p>○児童が気付いたこと、発言したことを音で確認したり、みんなで体を動かして確認したりしながら進める。</p> <p>○体の動きでは気付いたことがあっても、言葉で表現できない児童には、同じような動きをしていた他の友達に代弁してもらったり、指導者が言葉を補ったりして、感じ取れたことを認めるように声をかける。</p> <p>○旋律の音の動きは、図形譜や拡大譜を指でたどらせて、視覚的に確認できるようにする。</p>

<p>イ【動き】足を音に合わせて細かく動かす はねた感じを足や腕で表す動き</p> <p>【発言】音のはねている 速い 音が短い</p> <p style="text-align: right;">〔旋律・リズム〕</p>	<p>○旋律の特徴やリズムについて、気付いたことを、黒板にまとめ、言葉として確認していきけるようにする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">旋律の特徴やリズムの変化に興味・関心を持ち、体を動かして音楽を感じ取ろうとするなどして、進んで聴こうとしている。(関・意・態)〈観察・発言〉</p>
<p>5 全曲を通して聴き、今日の振り返りをする。(試聴③・・・全曲)</p> <p>・自席で聴く。</p>	<p>○アとイの旋律の特徴やリズムの変化について、確認したことを感じながら聴くように声をかける。</p> <p>○ア・イそれぞれの部分をどんなふう演奏しているのか想像しながら聴くように声をかける。</p>